

産業構造マップ<全産業>を使ったアウトプット例

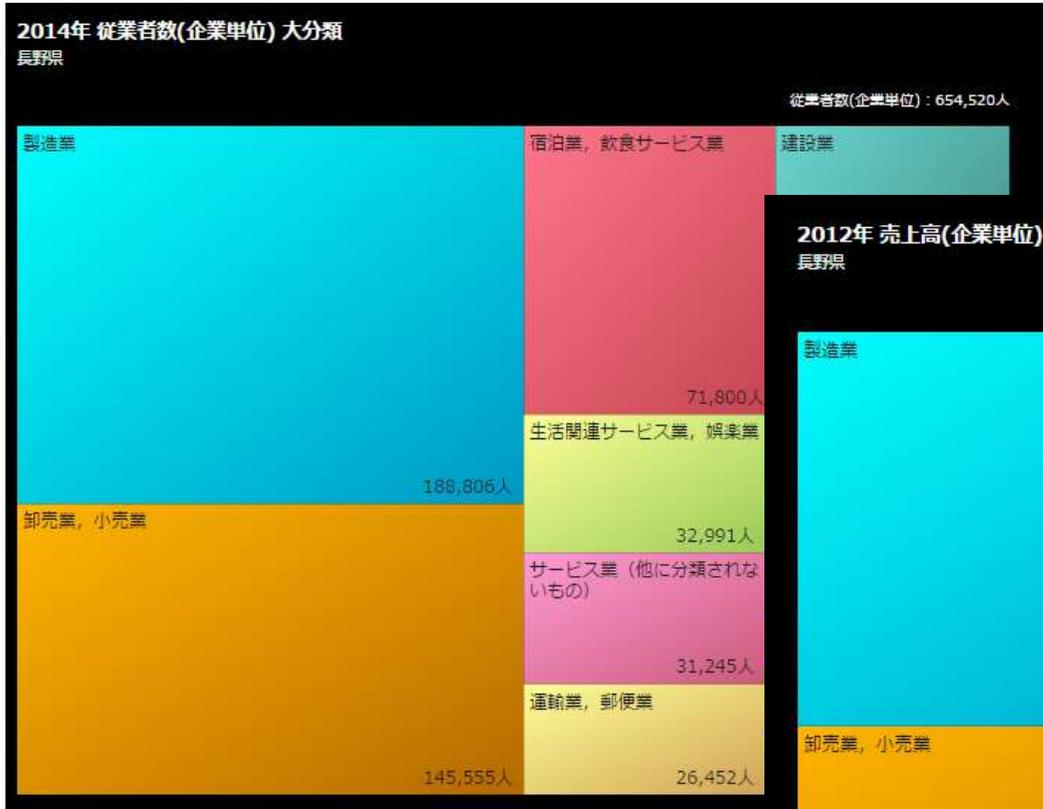
- ◆ 全産業の構造－全産業花火図
- ◆ 稼ぐ力分析・特化係数－付加価値額
- ◆ 稼ぐ力分析・特化係数－労働生産性
- ◆ 稼ぐ力分析・特化係数－付加価値額×労働生産性
- ◆ 稼ぐ力分析・特化係数－製造業
- ◆ 稼ぐ力分析・賃金構造分析

平成28年度長野県RESAS普及促進事業
受託者 特定非営利活動法人SCOP(平成29年4月更新)

全産業花火図

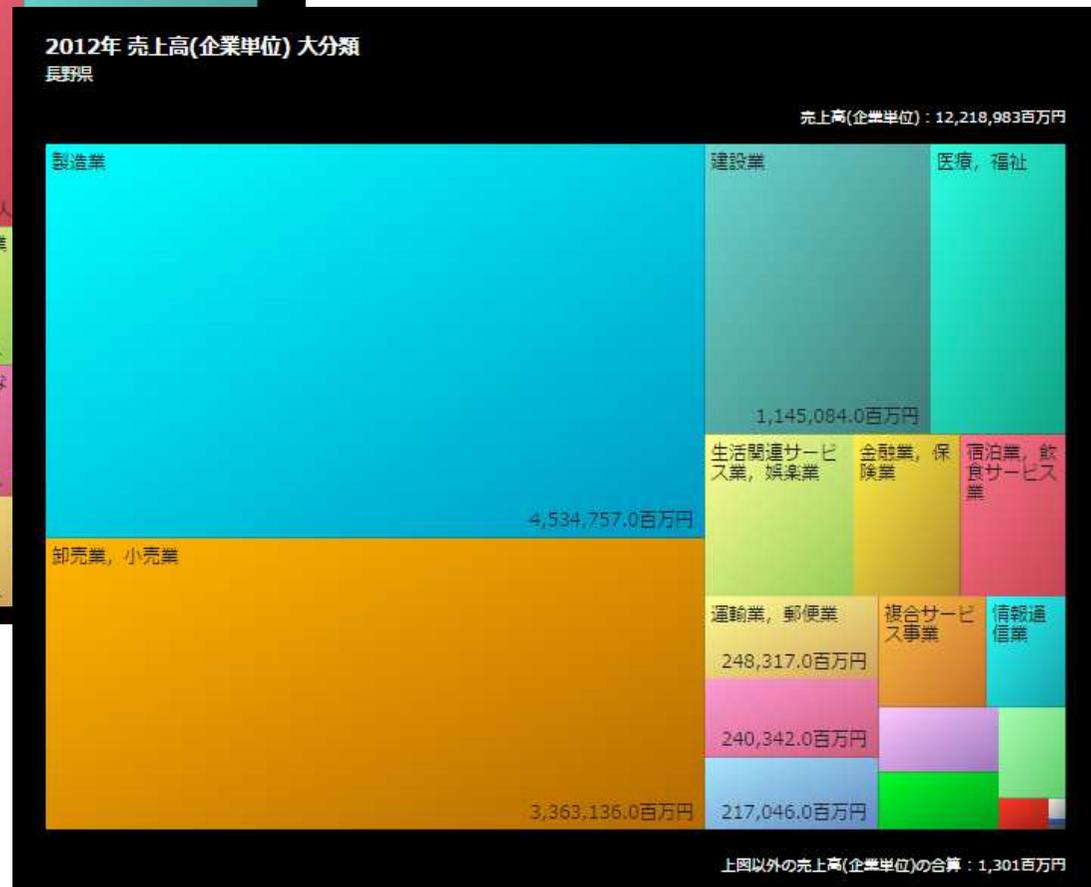
都道府県・市区町村単位で、企業数、従業者数、売上高、付加価値額、取引流入額の産業別の割合を四角の大きさで表現し、自地域の経済を支える主要産業や域外からお金(「外貨」)を稼ぐ産業等を特定することができます。

2014年 長野県の従業者数(企業単位) 大分類



長野県における従業者数、売上高について、産業大分類別にみると製造業の割合が最も大きいことがわかる。次いで、卸売業・小売業である。長野県において、製造業は雇用を生み出している基幹産業といえる。

2012年 長野県の売上高(企業単位) 大分類



【出典】「RESAS産業構造マップ」→「全産業」→「全産業の構造」/総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

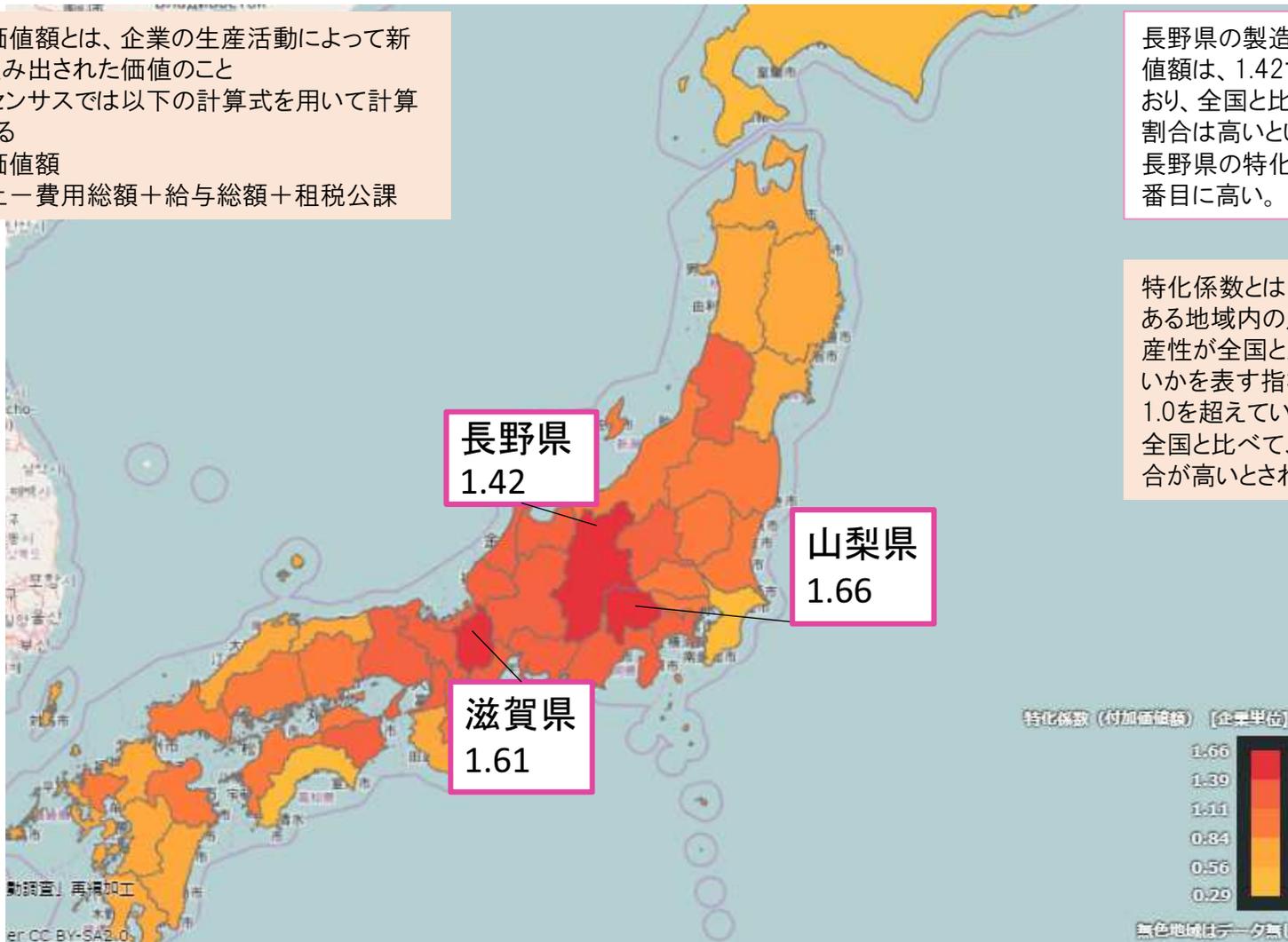
【出典】「RESAS産業構造マップ」-「全産業」-「全産業の構造」/総務省・経済産業省「平成24年経済センサス活動調査」再編加工

稼ぐ力分析・特化係数

都道府県・市区町村単位で、自地域の付加価値額、従業者数、労働生産性についての特化係数を様々なグラフやマップで把握することができます。

都道府県別特化係数(付加価値額—製造業)2012年

付加価値額とは、企業の生産活動によって新たに生み出された価値のこと
経済センサスでは以下の計算式を用いて計算している
付加価値額
=売上—費用総額+給与総額+租税公課



長野県の製造業における付加価値額は、1.42であり、1.0を超えており、全国と比べて産業に占める割合は高いといえる。
長野県の特化係数は、全国で3番目に高い。

特化係数とはある地域内の産業のシェアや生産性が全国と比べてどれくらい高いかを表す指標。
1.0を超えていれば、当該産業が、全国と比べて、産業に占める割合が高いとされる

【出典】「RESAS産業構造マップ」-「全産業」-「稼ぐ力分析」/総務省・経済産業省「平成24年経済センサス—活動調査」再編加工

稼ぐ力分析・特化係数

都道府県・市区町村単位で、自地域の付加価値額、従業者数、労働生産性についての特化係数を様々なグラフやマップで把握することができます。

労働生産性
＝付加価値額(事業所単位)÷従業者数(事業所単位)

特化係数 (労働生産性)

2012年

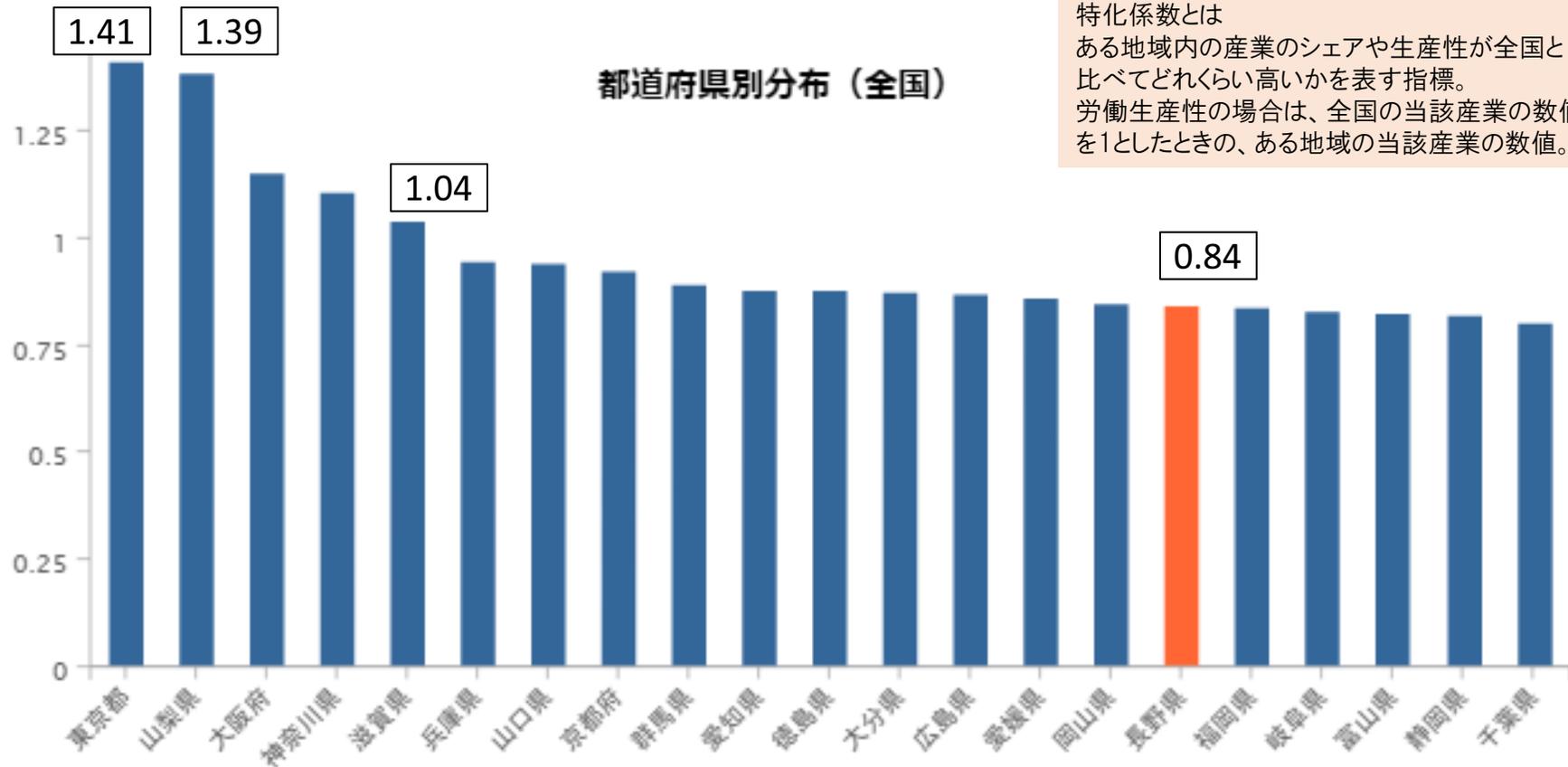
指定地域：長野県

指定産業：製造業

長野県の製造業における労働生産性をみると、特化係数は0.84であり、全国を下回る水準である。長野県は、労働力に対する依存度が高い「労働集約型」の産業の割合が比較的、高い。

労働生産性の特化係数が最も高いのは、東京都で1.41、次いで山梨県で1.39である。

特化係数とは
ある地域内の産業のシェアや生産性が全国と比べてどれくらい高いかを表す指標。
労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。



【出典】「RESAS産業構造マップ」-「全産業」-「稼ぐ力分析」/総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」再編加工

稼ぐ力分析・特化係数

都道府県・市区町村単位で、自地域の付加価値額、従業者数、労働生産性についての特化係数を様々なグラフやマップで把握することができます。

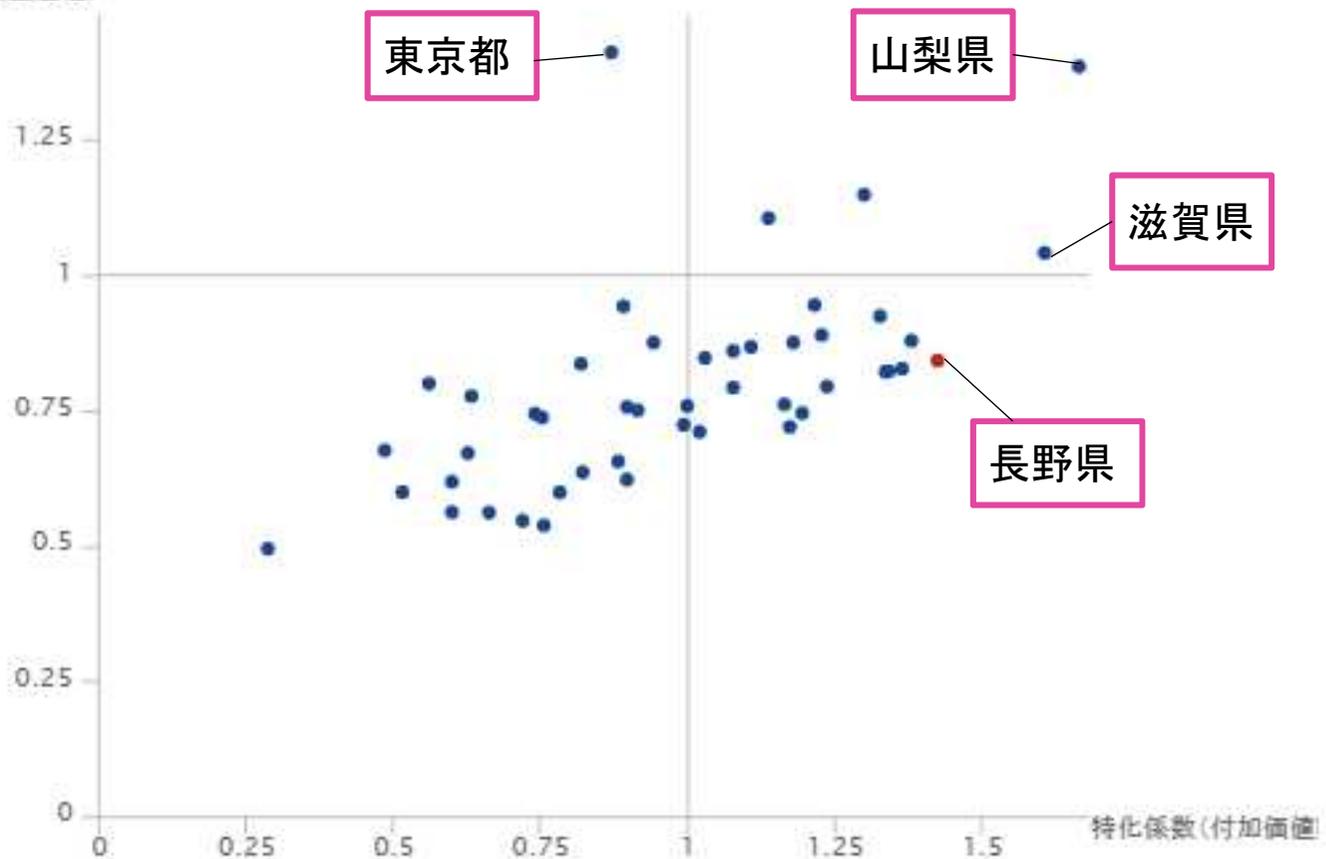
特化係数 (付加価値額) x 特化係数 (労働生産性)

2012年

指定産業：製造業

横軸に付加価値額の特化係数、縦軸に労働生産性の特化係数を示したものである。
長野県は、付加価値額の特化係数は高いが労働生産性は低くなっていることがわかる。

特化係数(労働生産性)



【出典】「RESAS産業構造マップ」-「全産業」-「稼ぐ力分析」-「グラフ分析」-「散布図で分析」/総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」再編加工

稼ぐ力分析・特化係数

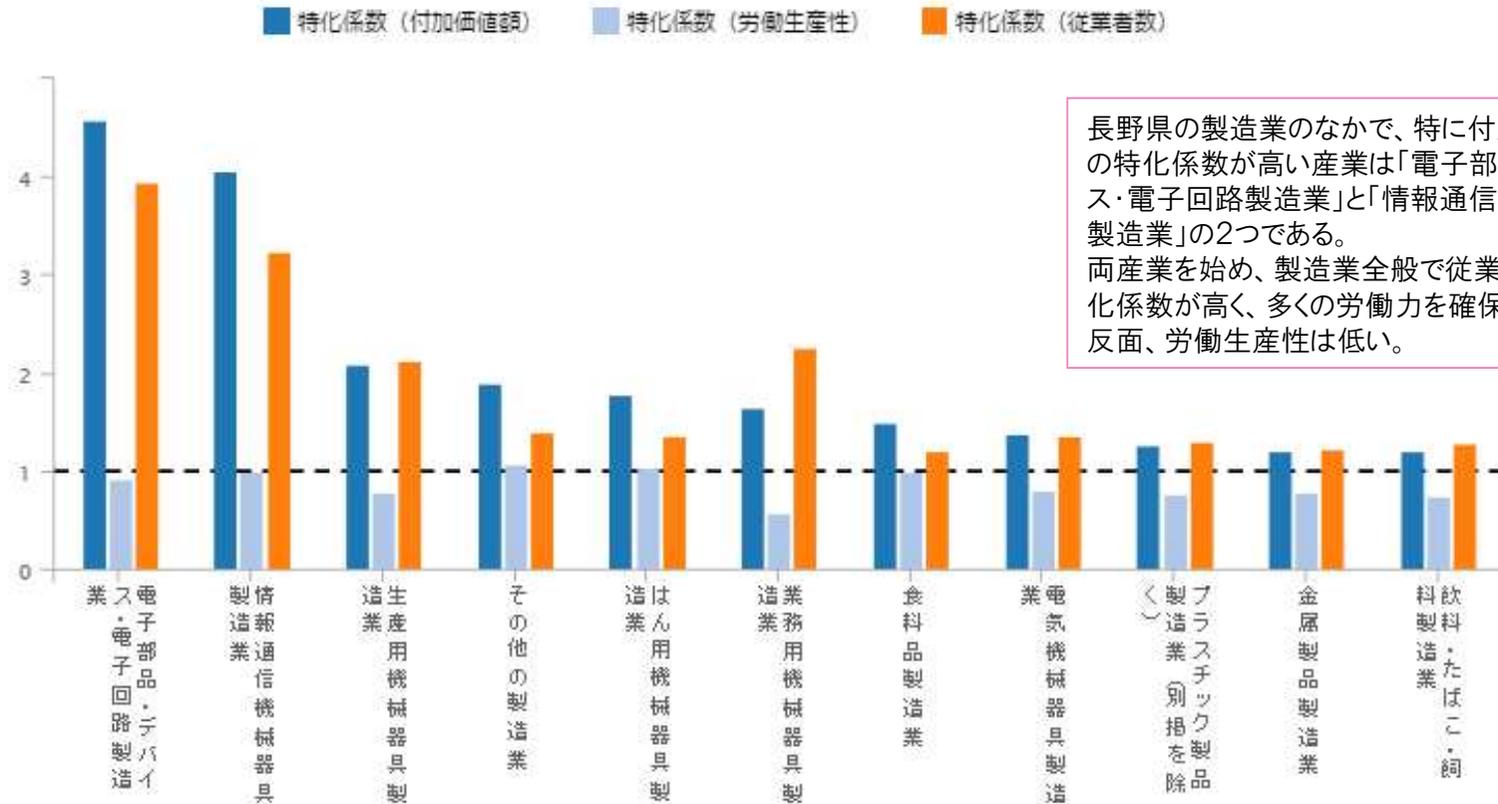
都道府県・市区町村単位で、自地域の付加価値額、従業者数、労働生産性についての特化係数を様々なグラフやマップで把握することができます。

産業別特化係数

2012年

指定地域：長野県

指定産業：製造業



長野県の製造業のなかで、特に付加価値額の特化係数が高い産業は「電子部品・デバイス・電子回路製造業」と「情報通信機械器具製造業」の2つである。
両産業を始め、製造業全般で従業者数の特化係数が高く、多くの労働力を確保している反面、労働生産性は低い。

【出典】「RESAS産業構造マップ」-「全産業」-「稼ぐ力分析」-/総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」再編加工

※特化係数:域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。

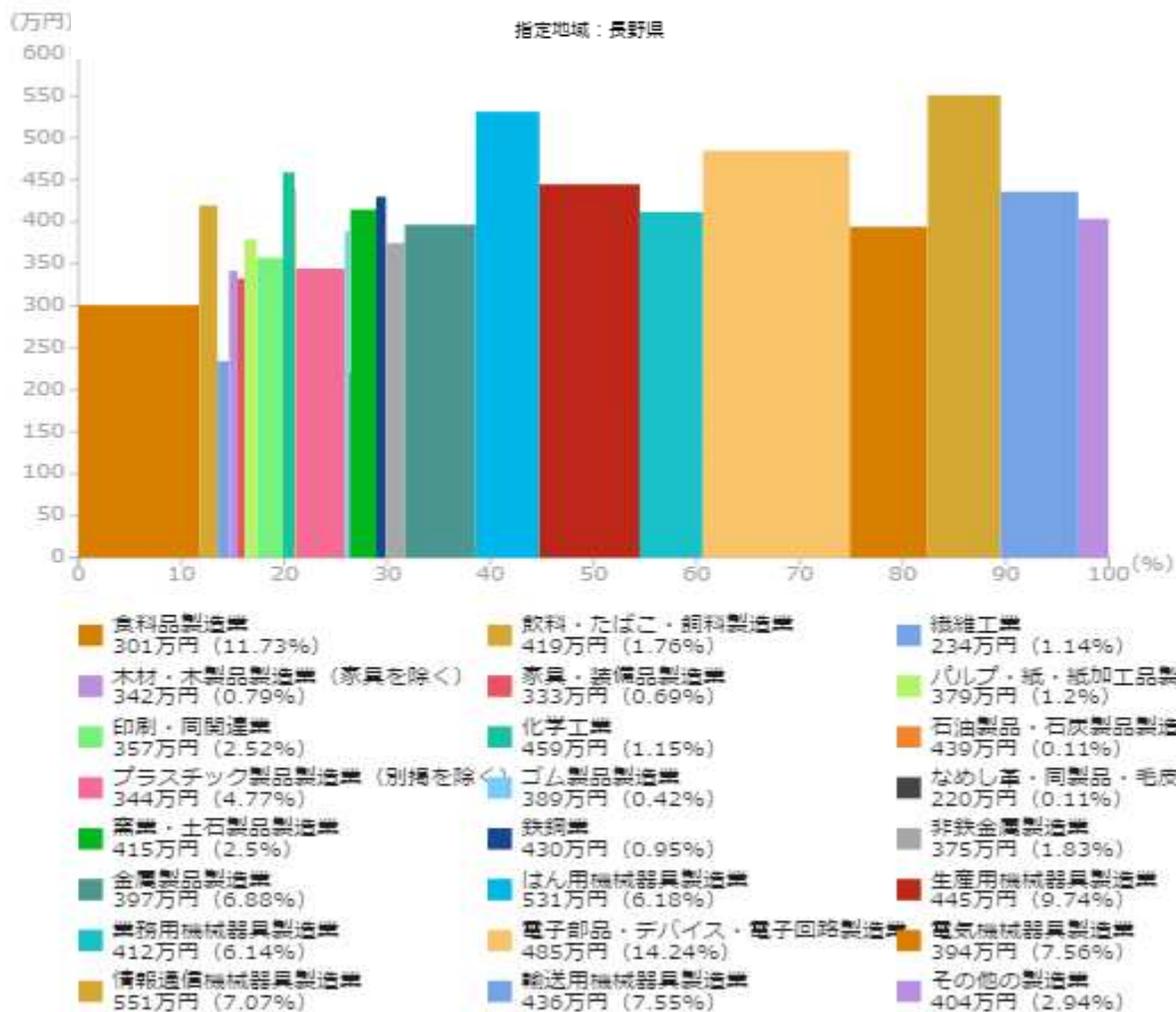
労働生産性=付加価値額(事業所単位)÷従業者数(事業所単位)

稼ぐ力分析・賃金構造分析

都道府県別の産業分類ごとの雇用者シェア及び一人当たり現金給与総額をスカイラインチャートで表し、賃金構造を把握することができます。

産業別の従業者シェア x 一人当たり現金給与総額
2012年

指定地域：長野県



長野県の製造業における従業者シェア(横軸)と一人当たりの現金給与総額(縦軸)を示したものである。

従業者シェアが高いもの(面積が最も広いもの)は、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」であり、一人当たり現金給与総額は485万円と、比較的高い。

【出典】「RESAS産業構造マップ」-「全産業」-「稼ぐ力分析」/経済産業省「工業統計調査」(再編加工)
 【注記】現金給与総額とは、1年間(1~12月)に常用労働者のうち雇用者に対して支給された基本給、諸手当及び特別に支払われた給与(期末賞与等)の額とその他の給与額との合計